

未来へつなぐ「食」と「環境」

～みどりの食料システム戦略の推進による
農林水産業の持続的発展と地球環境の継承～



私たちの命をつなぐ「食」は地球環境に支えられています。
食料の安定供給のためには、農林水産業の持続的発展と地球環境の継承を両立することが大切です。
私たちが、毎日当たり前のように食べている「食」を取り巻く課題について知り、何を選んでどう食べるべきか、一緒に考えてみませんか。

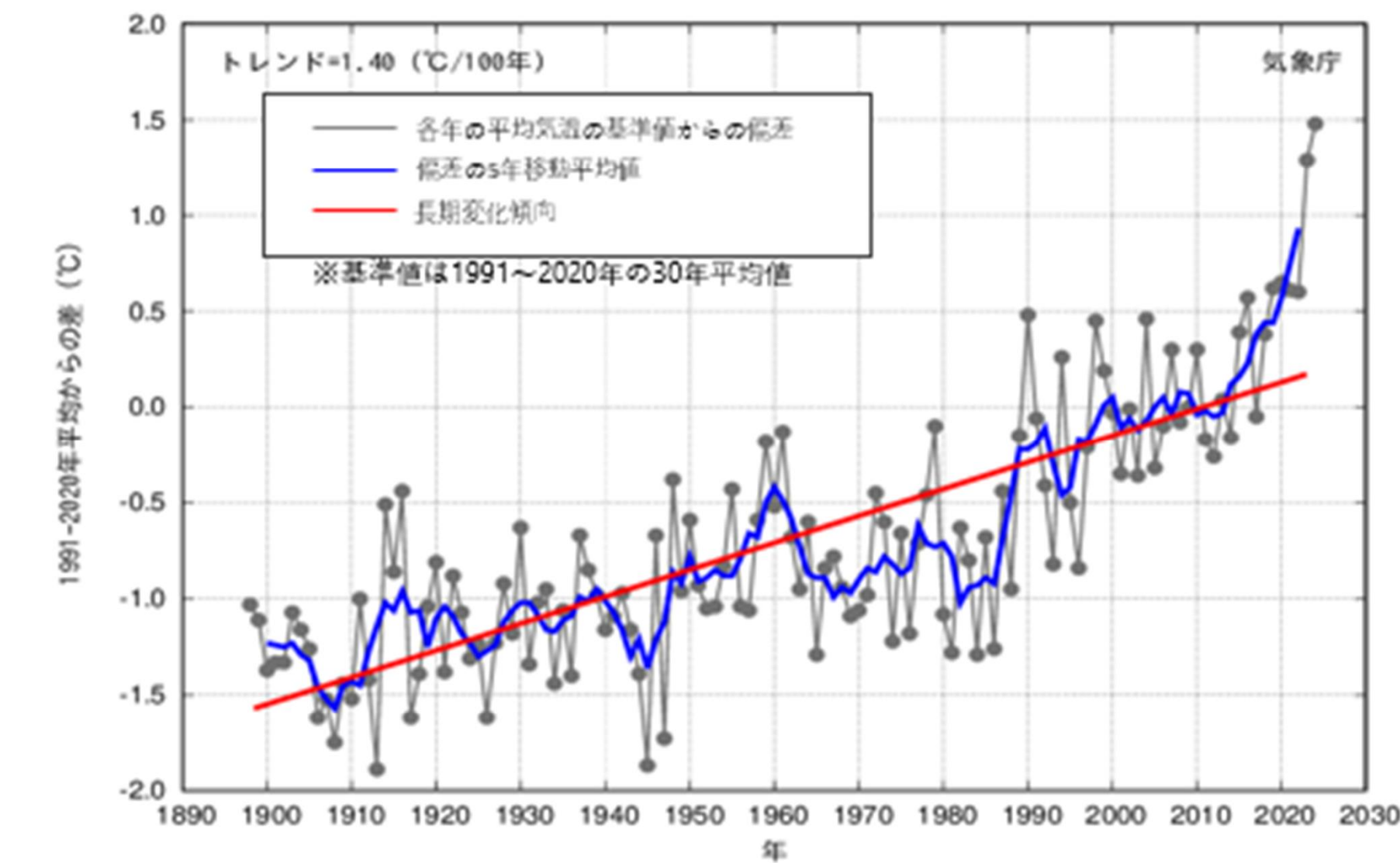
農林水産省 関東農政局

知っていますか

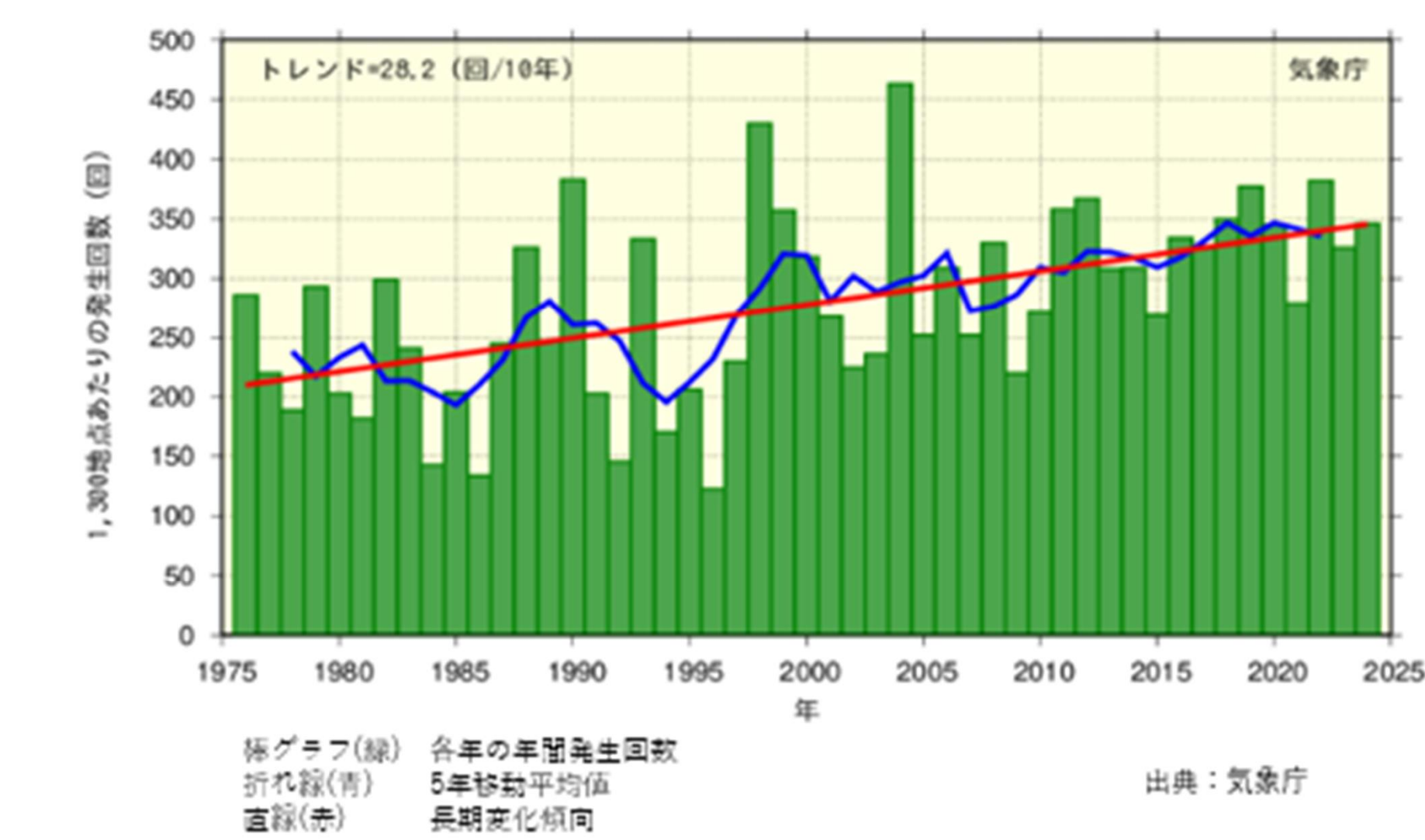
日本で起きていることは？

日本では、温暖化の進行により年平均気温は長期的に上昇しています。また、降雨量の増加等により災害が激甚化・頻発化してきています。

日本の年平均気温偏差の経年変化



1時間降水量50mm以上の年間発生回数



1

農林水産業と環境との関係は？

農作物は太陽のエネルギーや水などを使って育てられています。食品の加工・流通、消費段階で生じた残さや、家畜排せつ物は、たい肥やエネルギーなどに使われています。



また、農林水産業は食べ物や木材を作る以外にも私たちの生活を支える様々な働き（多面的機能）があります。



農林水産業は資源の循環利用や多面的機能を発揮しており環境に優しい産業と言える一方で、メタンなどを発生させ環境に負荷を与えている側面もあります。

2

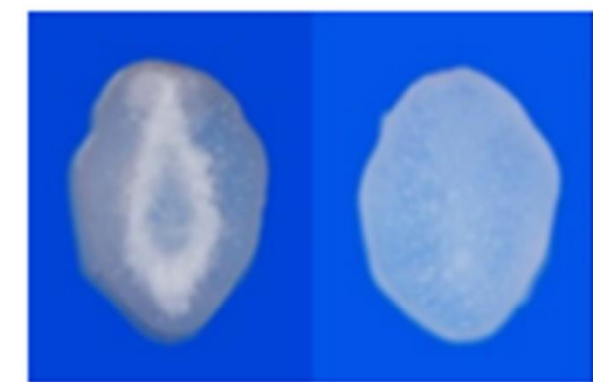
地球温暖化による食べ物への影響は？

私たちがふだんから食べている物にも、温暖化や異常気象による影響がでています。



田んぼでは…

害虫の被害が増えたり、品質が低下するものが出てきます。



左側のお米は、登熟期の高温により、でんぶんの蓄積が不足して白く濁ってしまっています。

畑では…

果物や野菜の色づきや形などが悪くなります。



りんごは、着色する時期が高温になると色づきが悪くなります。みかんは、成熟期の高温多湿により、皮と果肉が分離してしまっています。

牧場では…



牛や豚の繁殖率、鶏の産卵率が下がり、暑さに弱い牛は乳量が減ります。

出典：「みどりの食料システム戦略」関係資料集

3

なにを目指すのか

「みどりの食料システム戦略」

農林水産省は、「食」と「環境」を次世代に継承していくため、持続可能な食料システムの構築に向けて「みどりの食料システム戦略（2021年5月策定）」を進めています。

2050年までに目指す姿

- 農林水産業のCO₂ゼロエミッション化の実現
 - 化学農薬使用量(リスク換算)を50%低減
 - 化学肥料の使用量を30%低減
 - 耕地面積に占める有機農業の割合を25%(100万ha)に拡大
 - 事業系食品ロスを2000年度比で2030年までに50%削減
 - 林業用苗木のうちエリートツリー等が占める割合を9割に拡大
- などがあります。

(2050年までに目指す目標は全部で14項目あり、これらはその一部です。)



これらの目標をイノベーションにより実現し、環境に優しく持続可能な食料システムを構築します。

4

どうすればいいのか

吸収を増やす(森林や木材、海藻)

森林はCO₂を吸収し、木材として建築物などに利用することで炭素を長期間貯蔵することが可能です。加えて、省エネ資材である木材や木質バイオマスエネルギーを利用することで、CO₂排出削減になります。



海藻類がCO₂を吸収し、炭素（ブルーカーボン）として貯蔵します。

出典：「みどりの食料システム戦略」関係資料集

5

排出を減らす(家畜、農地、流通)

◇家畜の管理技術の改善

アミノ酸バランス改善飼料を用いて、体内で利用されないアミノ酸を減らすことにより、家畜の排せつ物からの温室効果ガスの発生を削減します。

◇バイオ炭の農地施用

木材や竹等に含まれる炭素を分解されにくい炭として土（農地）の中に閉じ込め、大気中への温室効果ガスの放出を削減します。



◇農地管理技術の改善

水稻栽培における中干し期間を延長することで、水を張った状態で活発に働くメタン生成菌の働きを抑え、温室効果ガスの発生を削減します。

◆ 中干し期間の延長（メタン）



出典：農産局農業環境対策課

◇農林水産物等の流通の合理化

集出荷拠点を集約、モーダルシフトを行い、流通を合理化します。

モーダルシフトとは、トラック等の自動車で行われている貨物輸送を環境負荷の小さい鉄道や船舶の利用へと転換することです。



6

有機農業など環境負荷低減した農業を拡大する

有機農業は、

- ① 化学的に合成された肥料及び農薬を使用しない
 - ② 遺伝子組換え技術を利用しない
 - ③ 農業生産に由来する環境への負荷をできる限り低減する
- というものです。有機農業をはじめとする環境負荷低減の農業が地球温暖化の防止や生物多様性の保全に大きな効果をあげています。

◇脱炭素社会に向けた取組

「たい肥」を使ったり「カバークロップ」を栽培して土づくりを行うことや、「有機農業」を行うことは、一般的な農法に比べて農地の土壌に有機炭素がより多くたまり、地球温暖化防止に効果があります。



◇自然との共生を目指す取組

化学肥料や農薬を使用しない「有機農業」や冬期に水田に水を張る「冬期湛水(たんすい)」によってさまざまな生きものが育つ環境をつくりまします。



出典：農林水産省HP「環境保全型農業のPRチラシ」

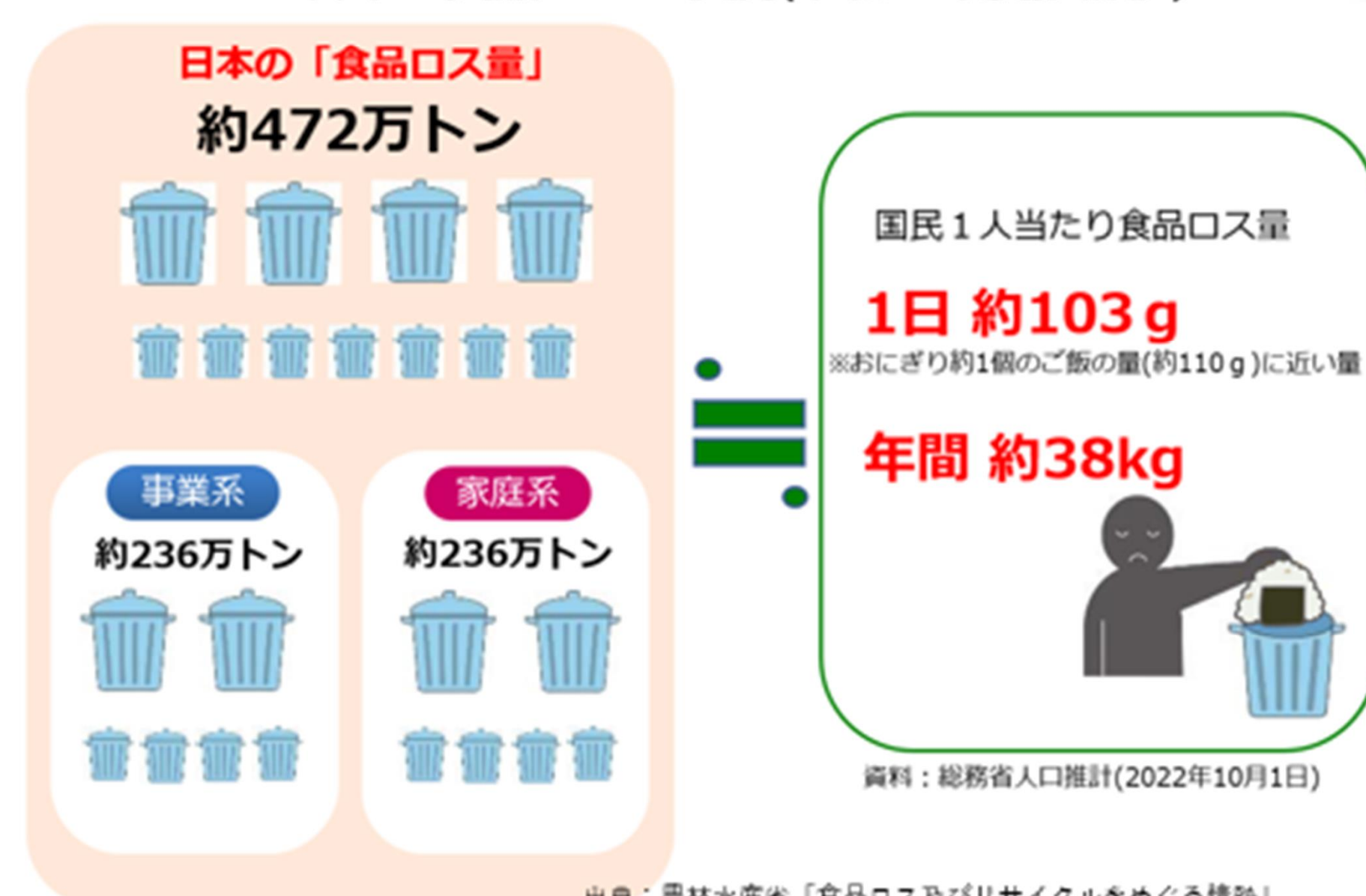
7

ムダのない加工・流通に取り組む

まだ食べられる食品が廃棄される「食品ロス」は472万トン。このうち、食品関連事業者から発生するロスは236万トンです。

食品ロスは経済的な損失となるほか、廃棄されてしまう食品の生産・加工・輸送、廃棄処理（焼却）などの際に温室効果ガスが排出されます。

日本の食品ロスの状況(令和4年度推計値)



生産された農林畜水産物が食卓に届くまでの間においても、食品ロスの削減や、廃棄される食品の飼料や肥料への再生利用などの取組が必要です。食品ロスを減らすためには、

- ◇ 納品期限を緩和するなどの商習慣の見直し
- ◇ 食品の販売量を予測するシステム技術の活用
- ◇ フードバンク活動
- ◇ エコフィードなどの飼料化や、たい肥化などの取組が必要です。

8

私たちにもできる具体的な行動は

環境に優しい食品を選ぶ



◇ 例えば、有機食品

農薬や化学肥料に頼らず、環境への負荷をできる限り少なくする方法で生産される有機農産物、有機畜産物、有機藻類と、それらを原料にした有機加工食品があります。

「有機JASマーク」は、第三者機関から認証を受けた生産者や製造者が、有機農産物等に付けることができます。



有機加工食品は、添加物などの化学物質にできるだけ頼らずに製造されています。



スーパーや直売所などの食品売り場では、有機食品のコーナーも増えています。



出典：農林水産省及び関東農政局HP「みどりの食料システム戦略」関連

9

環境に優しい食品を選ぶ

◇ 例えば、「みえるらべる」が表示された食品

生産者の環境負荷低減の努力を「見える化」し、分かりやすい形で表示するのが「みえるらべる」です。

温室効果ガス削減の取組（野菜、果物、茶の23品目）

化学農薬・化学肥料の使用低減など温室効果ガス削減の取組を削減貢献率に応じて評価し、★の数で表します。



削減率5%以上で★1つ 削減率10%以上で★2つ 削減率20%以上で★3つ

生物多様性保全の取組（お米1品目）

水田は生物多様性保全に重要な役割を果たしています。農薬不使用や冬場にも水を溜めるなどの取組の実施項目数を得点化して★の数で表します。

<カラー表示>

<白黒表示>

<英語版>



取組の得点2点



取組の得点1点



※農林水産省の登録商標。

※商標出願中。

10

身近な食材を選ぶ

日本は食べ物のカロリーベース約6割を海外から輸入していますが、大量・長距離の輸送は、地球環境に負荷をかけ、地球温暖化の原因となっています。地域で生産された身近な食材を選ぶことで環境負荷低減になります。



食品ロスを減らす

通常廃棄されてしまう規格外の野菜を原材料とした加工食品(アップサイクル食品)を選んだり、賞味期限が近く手前に陳列された食品を選ぶ(てまえどり)、飲食店での「食べきり・持ち帰り」の促進も食品ロス削減に役立ちます。また、家庭で出た生ゴミを肥料として資源循環させることも環境負荷低減になります。

未来の子どもたちが安心して暮らせる地球環境の継承のために様々な取組が行われています。

地球に暮らす私たちは、毎日の「食」を通じて出来ることがあります。是非一緒に考えましょう。

農林水産省 関東農政局 消費・安全部 消費生活課 消費者対応班
TEL: 048-740-0359 Email: seikatsu_kanto@maff.go.jp

2025年5月作成

11

参考情報 (もっと知りたいあなたへ)



みどりの食料システム戦略



「見える化」
みえるらべる



関東の国産有機食品
販売店舗紹介



ノウトコネクト



食ミラプロジェクト



SYOKUMIRA_MAFF.KANTO



YouTube

12